

一般質問 議:議員/理:理事者

- 中学校再編について
- 職員の健康管理・人事行政の運営等について

その他の質問

- ・高齢者支援について
- ・ポイ捨てについて



森 かよ子議員



議 中学生全員が勝山高校敷地内で生活を送る事で享受できる恩恵とは具体的にどのような事か。また、教育長は以前「教育内容によって、施設のあり方が決まってくる」と発言されているが、教育内容より先に施設が決まっている事について伺う。

理 学ぶ場所を共にする事で、中学生が高校生に憧れ、その姿を追いかけようになる事が一番の恩恵である。生徒会行事等を合同で行う事があれば、中学生は高校生の姿を見て様々な経験を積む事ができるし、高校生の進路選択は、中学生にとって将来を考えるきっかけとなり、早い段階から自分の姿を想像し、6年という年齢差の中で豊かな社会性を育む事が可能となる。さらに図書館に常駐する高校の司書や、授業をサポートする高校教員が身近になる事で関わる教職員が増え、支援の幅や多様性が広がり、社会で生きていく力の育成に寄与できると考える。

また、教育内容と施設のあり方を切り離して議論するのは望ましいやり方ではなく、教育の目的、目標も考えながら、学校はどうあるべきかを並行して検討する事が現実的であると考えている。学校教育においては、子ども達を取り巻く様々な環境の変化に伴い教育課題も変化していき、またそれに適した教育環境の整備が必要と考える。新中学校校舎は勝山市が目指す教育の姿を実現できる設計となっており、今後の教育内容の変化にも対応できるものと考えている。

議 市の職員数が条例に定める定数の6割となっているが適正と考えるか。また、適正と思われるなら、その根拠を伺う。

理 条例で定める職員定数は、あくまで上限を示しているもので、実際の職員配置については、正職員はもとより、再任用職員や会計年度任用職員も含め、全ての職員を全体で捉えて適正な管理を進めていると考える。今後も、社会情勢の変化や将来を見通した人口減少を踏まえ、適正な職員数を見定めつつ、包括業務委託等による業務の外部委託等も選択肢の1つとして検討し、質の高い市民サービスの安定的な提供と将来にわたり持続可能な行政運営を図ってまいりたい。

一般質問 議:議員/理:理事者

- 子育て政策について
- 給食費無償化について

その他の質問

- ・第6次勝山市総合計画と次期市長選について
- ・マイナ保険証について



近藤栄紀議員



議 9月より県内初の保育料完全無償化が実施されるが、これは子育て世代の親にとって大変歓迎される支援である。少子化問題を克服する為、更なる子育て政策を考えるとすれば、どのような考えがあるか伺う。

理 0歳から18歳までの子どもに対する経済的な支援策をスタートさせたい。誕生時から中学校卒業の15歳時まで、ひとりひとりの子どもの未来を応援する為、持続的な給付を考えている。

高校生に対しては、市内唯一の高等学校である勝山高校の重要性を視野に入れ、英語教育、海外への修学旅行、県立大学恐竜学部と連携した探究学習等への支援を考えていく。

大学生等への給付型奨学金については、令和9年度を目標に検討を進めている。

これら経済的支援策と、勝山中学校を素晴らしい学校にしていく事の2つを中心に、より子どもを産み育てやすい環境を整え、新しい時代を生きぬく子ども達を育成してまいりたい。

議 現在、当市において、学校給食の保護者負担割合はどの程度か。新中学校の再編が進められているが、令和9年までに給食費無償化を検討してはどうか。

理 当市の学校給食の保護者負担は、小学校が1食255円または265円、中学校が308円となっており、今年度の試算では、保護者負担額は約7,700万円になる。近年、物価高騰により給食の量や質を維持する事が困難になっている為、市では昨年度より小学校の炊飯業務等の委託や、中学校の副食補助金の増額等、保護者負担を増やさない為の対策に取り組んでいる。

令和9年度時点では保護者負担額分無償化に係る経費は約7,200万円が見込まれる。全国の自治体の約4割が何らかの形で無償化をしているが、国では、給食の提供を受けていない子どももあり、公平性の観点も踏まえて必要な支援を検証していきたいとしているので、こうした国の動向を注視しつつ、保護者負担額を増やさない対策を継続してまいりたい。